

市民参加と議会改革を実現させる会派!

市民力 通信 vol.4

連絡先
〒271-8588
松戸市根本387-5
松戸市議会「市民力」
電話・FAX
047-366-7338
shiminryoku@hotmail.co.jp

市民力は、市民の皆様にきちんと議会の動きをお伝えするため、定例会ごとに会派全員そろって報告会をしています。

第4回
議会報告会

11月13日(日) 午後3:30~
古ヶ崎市民センター 大ホール

無料・先着受付

今議会では谷口議員が決算委員会に臨み、市立病院問題や行財政改革の他、震災対策、国民保険や平和事業など、市民目線の質問を多く取り上げました。

山中・原・海老原の3議員は、図書館の充実やインターネットを活用した公共施設予約の利便性の向上、都市ブランド戦略や障害者福祉政策など…多面的な一般質問で積極的に提案を行い、前向きな答弁も多々得ることができました。

今回の報告会は、副幹事長の地元・古ヶ崎市民センターで行います。お誘い合わせの上、ご来場頂けますと幸いです。

新病院問題、一步前進!

昨年、当選直後の本郷谷市長が客観的な意見を聞くため、市立病院建替検討委員会(医師5名、専門家2名、公募市民3名)に諮問した事はご案内の通りです。

しかし、3月末に出された答申は「現地建替え困難」。また、同時に高塚新田の「東松戸病院の建替え」等も提言されました。

これに対し市長はインタビューで「答申は現在の病院の1.5倍の大きさで建替えを検討したので現地建替え困難となった」、現地建替えのマニフェストは「あきらめない。そのための腹案がある」・「答申は尊重する」と応じました。

これにより、建替え議論は上本郷・高塚新田の2つの病院のダブル建替えの検討へと向かい、6月30日に新病院構想8案が市長から提案されました。内容は超急性期病院(450か600床)と日常支援病院(250か200床)の組み合わせで、場所は上本郷、運動公園、千駄堀、紙敷、高塚新田の5か所の組み合わせで計8案、事業費は147~262億円でした。市長は事業費の安い超急性期病院450床の6・7案を推奨案としました。

我が市民力は住民投票の署名時からの考え(1:市立病院は公平性から市の中心で、2:市の財政を考えなるべく安く、3:決定過程を明らかに)を一貫して打ち出し、上本郷の現地建替えを含んだ最も安い147億円の「構想6案」を支持。しかし、委員会の審議では6・7案に対

する反対意見が多数を占め、審議は紛糾しました。委員会の多数派は超急性期病院600床の1から5案の審議を求め、6・7案の撤回を市長に強く迫ったこともあり、ついに市長は9月15日の委員会でマニフェスト案を含む構想6・7案を明確に断念しました。

理由は、6・7案では議会の賛成が得られ、450床では医療従事者の賛成が得られないとのこと。また、新病院建設は一刻の猶予も許されないとの判断からやむなく断念との事でした。

市民力は市長の判断や説明不足の点に強く疑問を呈し、何度も直接、話をさせて頂きました。しかし、執行部が案を取り下げた以上、新病院建設までの時間的猶予も考慮し、6案を苦渋の決断で断念、現行の施設が引き続き使用できる点や住民投票時の考えに最も近いと思われる構想3案(上本郷、千駄堀案)を断腸の思いで目指すこととなりました。定例会最終日の9月26日には、この3案を中心に市立病院建設検討特別委員会として検討を始めた所です。

理由がどうあれ、6案を断念せざるを得ない結果になりましたこと、深くお詫び申し上げます。

しかし、住民投票時の考えに基づき、これからも病床数削減などを訴えていきたいと思っております。今後もご支援賜りますようお願い申し上げます。



一緒に
かえましょ
松戸を!

谷口 薫(たにくち かおる)
昭和10年生まれ。副幹事長。議会最年長。
〈所属委員会〉
教育経済/学校跡地検討/決算



市民
革命派!!

海老原 弘(えびはら ひろし)
昭和27年生まれ。鹿児島県出身
〈所属委員会〉
都市整備/議員団役員



市民が
主役の
街に!

山中 啓之(やまなか けいじ)
昭和54年生まれ。32才。幹事長。松下政経塾出身
〈所属委員会〉
総務財務/議会運営/広報/議会活性化



松戸の
未来へ
全力投球!

原 裕二(はら ゆうじ)
昭和40年生まれ。好物:あんパン
〈所属委員会〉
健康福祉/議会表彰/病院建設検討